

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 Ohana		
○保護者評価実施期間	令和8年1月27日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		～ 令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに合わせた丁寧な個別支援 子どもの特性や発達段階に応じた個別支援を重視し、安心して通える環境づくりと成長実感につながる支援が行われている。保護者からも「子どもが安心して通えている」「成長を感じる」「丁寧な関わり」といった評価が多く、支援の質の高さが事業所の大きな強みとなっている。	個別支援計画に基づいた支援 小集団活動と個別支援の組み合わせ 子どもの特性理解の共有 日々の記録による振り返り 園・保護者との日常的な情報共有 安心できる関係づくり	支援意図の職員間共有の強化 カンファレンスの定期化 支援方針の見える化 記録の統一 チーム支援体制の強化
2	安心感のある人的体制と丁寧な支援環境 基準以上の職員配置を行い、子ども一人ひとりに丁寧に関わることができる体制を整えている。 余裕のある人員配置により、安全性、安心感落ち着いた支援が確保されている。	基準以上の職員配置 役割分担の明確化 チームでの支援 落ち着いた環境づくり 安全管理の徹底 専門職の配置	配置体制の職員への周知 支援体制の見える化 マニュアル共有 新任職員への説明 研修実施 ICT活用による共有
3	保護者との信頼関係に基づく支援 保護者との日常的な情報共有や丁寧な対応により、高い満足度と信頼関係が築かれている。 保護者評価では「継続利用希望」「安心感」「丁寧な対応」など、非常に高い評価を得ている。	日々の様子の共有 面談の実施 写真付き報告 丁寧な説明 相談対応 保護者理解を重視した関わり	情報共有体制の明確化 相談窓口の整理 保護者勉強会 保護者交流機会 関係機関連携 情報発信の充実

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有・共通理解の仕組みが十分に可視化されていない 支援の質自体は高いものの、実施している取組・支援体制・マニュアル・役割などについて、職員全体への共有が十分とは言えない部分がある。 そのため「実施しているが理解されていない」項目が自己評価で複数見られた。	小規模ゆえ口頭共有が中心 文書化・見える化不足 研修時間不足 新任職員への説明機会不足 情報が個人に集まりやすい ICT活用が限定的 忙しさによる確認不足 ⇒つまり支援はできているが仕組み化が弱い	情報共有の見える化 週1確認 会議記録共有 ICT活用 新任オリエンテーション 支援体制掲示 役割確認 マニュアル再確認 定期研修 ⇒目的：全員が同じ理解で支援できる状態
2	保護者・関係機関との連携体制の仕組み化が十分とは言えない 保護者満足度は非常に高いが、連絡窓口、情報共有方法、相談体制、交流機会などについて、分かりづらさが指摘されている。	口頭中心の連絡 担当者依存 相談窓口不明確 共有方法未統一 役割の明確化不足 ⇒つまり関係性は良いが仕組みが弱い	相談窓口明確化 連絡ルール統一 情報共有ツール活用 保護者勉強会 交流機会 担当者明確化 連携会議 ⇒目的：安心して相談できる体制の見える化